

第2次旭川市食育推進計画

計画期間 平成24年度～平成28年度

《スローガン》
おいしいものをおいしく食べよう
～食は生きる力～



旭川市は、米や野菜をはじめとした農産物の主要な生産地であり、それらを活用した食料品製造業が発展し、北北海道の食の流通拠点となっており、食環境に恵まれています。

地域特性を生かしながら、教育や保育、保健医療、農業、食品関連産業等の関係機関、消費者団体、ボランティア団体、行政など、多様な関係者が一層連携を深め、より効果的に食育を推進し、食の大切さを多くの市民に認識していただき、心身の健康と豊かな人間性を育み、次世代へとつないでいくため、「第2次旭川市食育推進計画」を策定します。

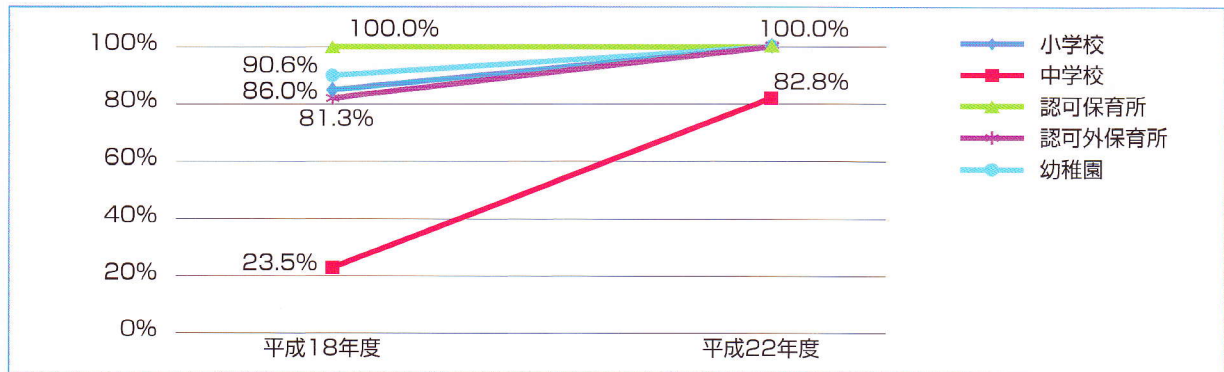
食育の現状と課題

平成19年3月に、平成19年度から平成23年度までの5年間の計画期間とする旭川市食育推進計画を策定し、関係機関等が連携しながら取組を進めてきました。

その結果、学校・保育所等での子どもたちに対する食育や地産地消の取組等、本市における食育の取組は着実に広がってきています。

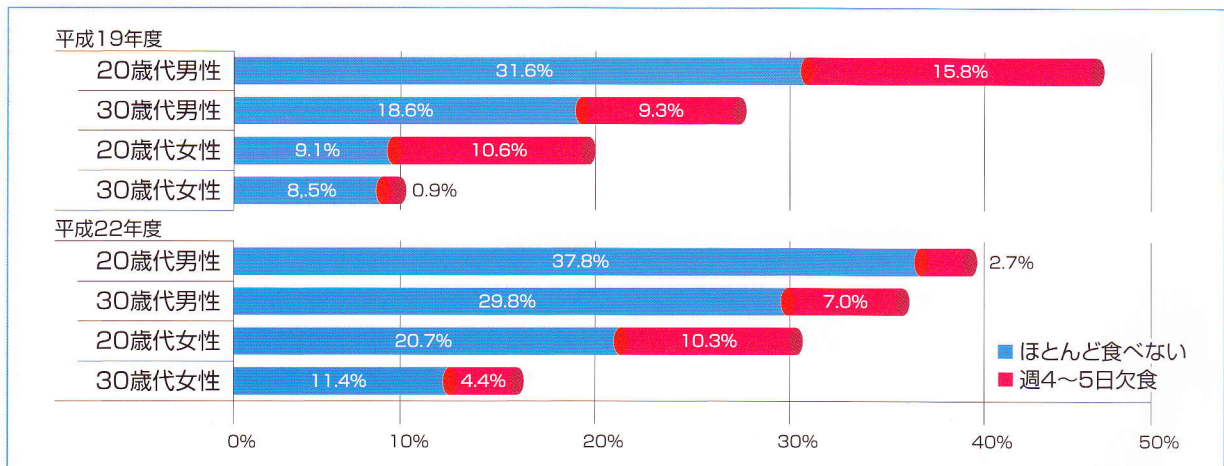
一方で、平成22年度に実施した調査の結果等から、市民一人ひとりの食育に対する関心の高まり、栄養の偏りや朝食の欠食等といった食習慣の乱れの改善については、さらなる取組を進めることが必要です。

◆食の体験活動の実施状況の推移



(旭川市教育委員会、旭川市子育て支援部)

◆朝食の欠食の状況



(旭川市食育に関するアンケート調査)

食育の目標

《基本理念》

生涯を通じて心身ともに健康で
いきいきと暮らす、豊かな人間性の実現

《目標》

2 心身の健康を
育むため健全な
食生活を実践します

1 正しい食について
自分で判断できる力を
身につけます

3 自然の恵みに
感謝し、食べ物を
大切にします

《スローガン》

おいしいものをおいしく食べよう！
～食は生きる力～

「おいしいもの」とは：
「新鮮なもの」、「地場のもの」、「四季折々の旬のもの」、
「安全なもの」、「味付けの良いもの」などの意味が
込められています。

「おいしく食べよう」とは：
「家族や仲間と楽しく」、「よく噛んで・味わって」、「食
べ物に対する親しみや感謝の気持ちを持つ」などの
意味が込められています。

食育推進の取組

基本理念の実現を

(基本的な方向性)

家庭を中心に、地

基本施策1 食育

基本施策2 家庭

基本施策3 地域

基本施策4 学校

(基本的な方向性)

食材や食品を提
うにすることが大切

基本施策5 安全

基本施策6 安全

(基本的な方向性)

新鮮で良質な農
くことが大切です。

基本施策7 地域

基本施策8 生産

(基本的な方向性)

食に関わる関係者
を支援していくこと

基本施策9 関係

旭

これまでの取組を充実、発展
進するため、それぞれが役割を

各
ボラ

農林業等
関係者

食
事

役割：旭川市

★主菜とは:肉や魚,卵,大豆製品等,たんぱく質を多く含む材料を使ったおかず
★副菜とは:煮物やおひたし等,野菜やきのこ,いも,海藻を使ったおかず

計画の指標

取組の成果や達成度を客観的な指標により把握できるようにするため、指標項目と数値目標を設定します。

指標項目	現 状 値	目 標 値
(基本的な方向性1)「食」の大切さについての理解の促進		
1 食育に関心を持っている市民の割合	(22年度) 67.6%	(28年度) 90%以上
2 栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合	(22年度) 42.9%	(28年度) 65%以上
3 朝食を欠食する市民の割合	(22年度)	(28年度)
20歳代男性	40.5%	17%以下
30歳代男性	36.8%	20%以下
20歳代女性	31.0%	16%以下
30歳代女性	15.8%	9.4%以下
4 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の理解と、予防や改善のための食事や運動に留意している市民の割合	(22年度) 87.7%	(28年度) 95%以上
○メタボリックシンドロームの言葉と意味を知っている割合		
○自分の適正体重を維持することのできる食事量や栄養バランスを理解している割合		
男性	50.9%	60%以上
女性	56.9%	70%以上
○定期的な運動を実践して半年以上継続している割合	26.3%	35%以上
5 栄養バランスの改善(成人1日当たりの摂取量)	(22年度)	(28年度)
野菜の摂取量	237g	350g以上
カルシウム摂取量	520mg	650mg以上
食塩摂取量 男性	11.9g	9g未満
食塩摂取量 女性	9.8g	7.5g未満
6 朝食又は夕食を家族と一緒に週7回以上食べる割合	(22年度) 74.9%	(28年度) 85%以上
7 学校給食が好きだと思う児童生徒の割合	(23年度)	(28年度)
小学生(5年生)	68.4%	70%以上
中学生(2年生)	49.5%	55.6%以上
8 朝食を毎日食べている児童生徒の割合	(23年度)	(28年度)
小学生(5年生)	88.5%	90%以上
中学生(2年生)	84.5%	90%以上
9 外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする人の割合	(22年度)	(28年度)
男性	37.3%	41%以上
女性	51.7%	61%以上
10 栄養成分表示の店の登録数	(22年度) 175件	(28年度) 250件以上
11 食育の推進に関わるボランティアの数 (食育ボランティアに登録している市民の数)	(22年度) 198人	(28年度) 250人以上
(基本的な方向性2)安全・安心な食の推進		
12 安全性に関して食品表示を参考にする人の割合 (生産履歴、保存方法、使用方法等)	(22年度) 86.0%	(28年度) 90.1%以上
13 クリーン野菜表示販売率 (出荷額における割合)	(22年度) 64.3%	(28年度) 70%以上
(基本的な方向性3)地産地消を生かした食育の推進		
14 地場の食材を意識して食べている人の割合	(22年度) 14.4%	(28年度) 60%以上
15 市民農業ふれあい事業参加者数 (市民農業大学、子ども農業体験塾、親子ふれあい農業体験等)	(22年度) 248人	(28年度) 260人以上